

愛 労 連

愛知県労働組合総連合

名古屋市熱田区沢下町8-18
労働会館第2ビル
TEL 052-871-5433
FAX 052-871-5618
e-mail airouren@lilac.ocn.ne.jp
発行人 見崎徳弘

第78号 1999年10月10日

主な日程 11月

- 10日 暮らしと雇用・平和・民主主義を守れ！国民要求実現11.10大集会（18：30～東京・明治公園）
- 13日 愛労連結成10周年記念行事
- 17日 11.17愛知総行動

JMUIU NCR支部

69人が転籍リストラ(を拒否)!!

名古屋では3人が隔離部屋に



名古屋営業所の隔離部屋に移って3ヶ月。仕事のないままここで1日過ごす。左から友石氏、柘植氏、荒川氏

大企業を中心に中高年のリストラが横行しています。日本NCRでは別会社への転籍を拒否した従業員を、「隔離部屋」に押し込め、仕事を取り上げる攻撃がかけられています。会社の身勝手なリストラには従えないと、JMUIU・NCR支部の仲間が立ち上がっています。「隔離部屋」にいる名古屋分会の柘植照男さんにお話を聞きました。

日本NCRはアメリカを本社とする外資企業で、コンピュータやATM（現金自動支払機）、レジスターなどの販売・サービスをこなしている会社です。会社は六月二十五日、会社の保守・サービス部門の別会社への「転籍」を拒否している全国で六九名の組合員に、10ヶ所の「隔離部屋」への配転命令を出しました。

いま、大企業では会社の不採算部門を丸ごと仕事も人もアウトソーシング業務の委託化し、従業員を出向・転籍させる首切り・リストラが横行しています。

NCRは、内部留保を八〇〇億円ため込んでいるにも関わらず、人件費削減でさらに利益をため込もうとしています。

儲かっているのにリストラ

会社は四五歳以上にすべし「転籍」を強要。しかし、転籍をすれば退職金を含めて、二〇〇万から三〇〇万も減収。住宅ローンや子どもの教育費など、出費がかさむ年代の賃金ダウンは、生活設計が大きく狂ってしまいます。

働く誇りを奪う隔離部屋

（と名古屋三人）の組合員が「隔離部屋」に。名古屋営業所の「隔離部屋」にいる柘植照男さん（原告団長、中央副委員長）は、「自習」という名のもとに仕事を取り上げ、ひたすら机に向かっているというのには拷問と同じ。働くものの誇りを奪うものです。会社は、他の社員に断れば「こつなぞ」という見せしめの効果もねらっています」と。

たたかいは

中で組合加入

は許さない」と転籍を強要された従業員が、四二名も組合に加入してたたかっています。会社は、経費節減のために別会社を作ったのに、結局辞めない我々に賃金を払い続けている。私たちのたたかいは会社を追い込んでいくと柘植さん

愛労連 雇用・失業問題で申し入れ

10月25日に県交渉の予定

大企業のリストラ・人減らし、中小企業の倒産など深刻な雇用情勢が続く中、愛労連は県知事に雇用・失業に関する要望書を提出しました。

内容は、大企業のリストラ計画は自粛するよう要請すること、雇用拡大のため労働時間の短縮サービス残業の根絶など企業に具体的な対策の計画を求めること、介護・医療の充実に向けホームヘルパーや施設職員など公的職場での雇用創出をはかることなど、十二項目に及ぶもの。十月二十五日に県交渉をおこないます。

介護保障市民の会を結成

豊橋市職労などが市民と共同で

十月三日、豊橋市職員会館で、「介護保障の充実をめざす豊橋市民の会」が結成されました。この会は豊橋市職労や東三河労連などが準備を進めてきたもの。準備会では、これまで二回の地域懇談会とシンポジウムを開いて市民に参加を呼びかけてきました。

地域懇談会では、会場の周辺地域にヒラをまいたり、地域の老人クラブや民生委員、地区総代などの公務員に案内を送りました。参加者からは、「利用料や保険料が払えない人から苦情相談が寄せられそうだが、市に聞いてもらわれない」、「今、ヘルパーさんに来てもらっているが、引

き続いて来てもらえるのか」など、たくさんの質問や不安が出されました。

結成総会では、介護保障・介護保障の豊橋の現状説明がおこなわれました。デイサービスなどの介護基盤の不足、いまサービスを受けている人の二割が自立（？）。年金支給が平均四

大企業の横暴と自自公の悪政許すな!

11.17総行動に全組合員の参加を

問題は民間だけでなく、公務員も八月の人事（＝史上初のマイナス勧告）や自治体財政の悪化で賃下げや定数削減の攻撃にさらされ、厳しい確定闘争を闘っています。これが補助金力

つた介護保険も、国会で継続審議中の年金大改悪もみんなに共通した不安・不満となっています。戦争法の具体化、日の丸・君が代の押しつけ、自自公三党の党利党略による議員定数削減

「ガツンと一発やっちゃりたい」というのは多くの労働者・国民の思いです。公務員の賃金確定闘争や民間の一時金闘争と結合し、広範な労組・団体とともに財界・大企業の横暴や自自

減、そしてまたも浮上の消費税増税（自自公三党の福祉目的税合意）の動き...これも腹の立つことばかり。

● 介護・年金・消費税...許すな、国民いじめ

● 怒りを結集し世論を変える総行動を

● 怒りを結集し世論を変える総行動を

● 怒りを結集し世論を変える総行動を

● 怒りを結集し世論を変える総行動を



昨年の11・6総行動では小淵内閣へ「消費税なくせ」など多数のFAXが送られた。

三つを「地域」で企画し、「怒りを結集し、世論を変える総行動」としましょう。

会では、今後、市長に要請・懇談をしながら、十二月の予算策定期にあわせて、市民の四分の一に当たる一〇万の署名を取り組むなど、市民ともに介護保障の充実に向け、大きな運動にしていくことを申し合わせました。



会では、今後、市長に要請・懇談をしながら、十二月の予算策定期にあわせて、市民の四分の一に当たる一〇万の署名を取り組むなど、市民ともに介護保障の充実に向け、大きな運動にしていくことを申し合わせました。

介護保障でサービスはこうなります

みんなの声で介護保障の充実したまち(豊橋)を

市役所は、よりよい介護保障をめざし職員を育てています。

「住友電設・鈴木龍雄さん」の過労死裁判は9月13日、名古屋地裁で「喘息死を過労死」と認めた画期的な判決がだされました。提訴から五年。一宮地区労連は「支援する会」を結成し、全面的にバックアップしてきました。

一宮地区労連 支援が実った



一宮地区労連は、五年前に、労働組合や民主団体・個人も含めて「鈴木龍雄さんの『過労死裁判』を支援する会」を結成し、たたかってきました。裁判傍聴は毎回欠かさず、地裁や労働保険審査会への署名・八ガキなど、全国の労働組合や民主団体、「過労死家族の会」の協力をえて、二万の署名、千

原告・鈴木美保さんの話
夫の死が「過労死ではなく私病だ」とどついても納得できなくて過労死一〇番に相談しました。はじめは弁護士との二人三脚だったのが、一宮労連の方々と

「支援する会」を結成してから、運動の質が変わりました。行動や訴えなど、経験したことがないことが重なり、不安に思うこともありませんでした。でもその中で、信頼できる仲間、支えても

一宮地区労連の副議長で「支援する会」の代表・八橋昭郎さんは、「全国の皆さんの支援に感謝する。経験のない裁判闘争で手探りの運動だったが、こんな小さな地域労連でよかったから」と感慨深げ。地区労連はこのたたかいでたかさんのことを学びました。労働安全衛生を勉強して職場でのたたかいを強化していく必要があると毎



裁判所前での集会

「健康大学」を開いてきました。団体生命保険では、労働者が死んでも搾り取る企業の非道さに怒りが込み上げ、こんなことは許すまいと職場での点検運動も広がりました。「控訴しないで」の遺族の訴えや世論に逆らって、監督署は控訴しました。裁判は名古屋高裁で再び争われることになりました。「たたかいはさらに厳しくなるが、敗けるわけにはいかない。高裁で必ず決着をつける」

地区労連と「守る会」では、さらにたたかいを広げる決意をしています。らえる仲間ができて本当に良かったと思います。私の人生を変えてしまった会社に非を認めさせるよう、高裁に向けてもう一がんばります。



建設一般愛知県本部と全動労愛知支部そして運輸一〇名余の役員・代議員・オプザーバーの出席のもと、新組合の綱領・規約、運動方針、財政方針を討議・採択しました。運動方向として、政府・財界の「二一世紀戦略」が具体的に進行的な下で、①要求実現の組織的力量をより強化する、②愛労連を支える民間単産の建設をすすめる。このために、闘争力と政策力を引き上げ、名実ともに産業と地域に基盤を持つ労働組合の発展をめざすことを確認。三単産の委員長が「合意協定書」に署名・捺印、固い握手を交わして、建設労愛知本部が誕生しました。初代委員長は、堀川侑男さん、書記長は谷藤賢治さん(共に運輸一般出身)。

鈴木龍雄さん過労死裁判勝訴



使用者による不当な首切りや差別・団交拒否などから労働者を守り、団結権をはじめとする働く者の権利救済に大きな役割を果たす愛知地労委の第三五期労働者委員の改選が十二月一日に迫りました。

知事は地裁判決を受けとめよ!

一九八九年の労働戦線の再編に伴い、それまで労働三団体から系統別に選任されてきた労働者委員が、再編後の改選で七名全員が「連合愛知」に独占されました。愛労連と地労委民主会議は知事と愛知県を相手に非連合を排除する差別行政だとして裁判に訴えてきました。五・二二名地裁判決では問題点を認め、

「今後はより多くの労働者が支持できる多様な委員構成を」との画期的な勧告が出されました。地労委民主会議は、知事と県にこの裁判所の勧告

一〇万署名を集め 県に迫ろう!

二候補の任命を勝ち取るため、団体二千、個人一〇万の署名を取り組んでいます。職場からの推薦決議とあわせて、全力で取り組みましょう。

12月1日 改選

35期労働者委員

候補 2

必ず

私たちが推薦する 第35期 労働者委員



田中 洋行
全港湾名古屋支部 書記長



阿部 精六
愛労連議長

組合員の相談事には親身により、新規加入分會になくはならない人。伊勢湾陸運争議では不当な組合員差別に真っ向から立ち向かって地労委闘争をリード。労災防止指導員として港の労働者の命と健康を守る先頭に。

建公労が結成大会

建設一般運輸一般全動労の三組合が統合

建設一般愛知県本部と全動労愛知支部そして運輸一〇名余の役員・代議員・オプザーバーの出席のもと、新組合の綱領・規約、運動方針、財政方針を討議・採択しました。運動方向として、政府・財界の「二一世紀戦略」が具体的に進行的な下で、①要求実現の組織的力量をより強化する、②愛労連を支える民間単産の建設をすすめる。このために、闘争力と政策力を引き上げ、名実ともに産業と地域に基盤を持つ労働組合の発展をめざすことを確認。三単産の委員長が「合意協定書」に署名・捺印、固い握手を交わして、建設労愛知本部が誕生しました。初代委員長は、堀川侑男さん、書記長は谷藤賢治さん(共に運輸一般出身)。

愛労連結成10周年 記念行事

記念行事

11月13日(土)14時開演
名古屋・中区役所ホール

愛労連は今年の十一月十七日で結成から十年目を迎えます。十周年記念事業として①十年史の発行、②ベトナム国際交流と沖縄平和ツアー、③コンサート、レセプションをおこないます。

フォルクロレアンサンブル・ケナナを経て、一九八四年にソロシンガーとなった太田真希さんと、セントラル愛知交響楽団員を中心とした「歌心のある演奏」という意味をもつリート弦楽四重奏団のジョイントコンサートは、たくさんの方の組合員・家族のみならず心をつなぎ、明日へのファイトをプレゼントしたい。そんな思いで企画しました。

太田真希コンサートへ



太田真希
百万本のバラ/鳥の歌/花祭りノコンドルは飛んで行くをはじめ、四季折々の歌メドレーや核兵器はいらないの思いを込めた風花、沖縄への連帯を謳う鳥の心ひとつに、など二十曲余。リート弦楽四重奏団 シュトラウスのオペレッタ「こもりノヴィヴァルディの「春」をはじめ小品を含め十曲余。整理券は、各単産・地域労連にあります。そらってお楽しみください。